

【特徴】

レジデントは、将来産婦人科専門医を目指すための1年間の産婦人科研修プログラムであり、シニアは、産婦人科専門医を取得し、より高度な知識・技術の修得を目指すための1年間の産婦人科研修プログラムである。

年間約600件の分娩管理を行うWHO Baby friendly hospital認定施設として、また経膈手術・内視鏡手術を中心とした低侵襲手術を数多く行なっている当院における1年間の研修期間で、産婦人科診療に関する必要な知識・技術をマスターし、産婦人科医師としての女性患者に対する基本的なものの見方・考え方を身につける。

日本産科婦人科学会専門医制度認定施設として研修期間と算定される。またこのプログラムの応用により産婦人科専門医に向けての高次研修プログラムへの移行が可能である。

【研修目標】

1. 一般目標

一般診療に必要な基本的技能・知識を身につけた上で、産婦人科領域の基本的技能・知識を修得し、患者を全人的に把握、治療方針を立てられる能力を養う。

社会人として医師としての常識・倫理観を身につけ、患者およびその家族との信頼関係を形成する習慣を身につける。

他の医師およびスタッフとの協調的な人間関係を形成する。

さらにシニアは、内科、外科、小児科にとらわれず、重症患者の病態を適切に把握し、病態に応じた治療法と必要な医療機器の選択、さらには治療効果の評価とフィードバックを行えるよう修練し、たとえ緊急に重篤な患者に遭遇した場合でも対応することができるよう、常日頃から研鑽する。

2. 行動目標

<産婦人科一般>

(1) 問診および診察法

- ① 患者に不安、苦痛、羞恥感を与えずに接することができる。
- ② 患者からの確かつ円滑に病歴を聴取することができる。
- ③ 全身の身体所見の観察および把握を正確に円滑に行うことができる。
- ④ 産婦人科診察法を正確に円滑に行うことができる。
- ⑤ 看護師・助産師と協調的な人間関係を築き、協同的に診療を行うことができる。

(2) 検査法

- ① 一般血液検査、尿検査、糞便検査の方法を理解し、評価できる。
- ② 各種生理機能検査の方法を理解し、評価できる。
- ③ 各種放射線検査の方法を理解し、評価できる。
- ④ 必要な検査計画を的確に立てることができる。
- ⑤ 検査技師、放射線技師と協調的な人間関係を築くことができる。

(3) 基本的手技

- ① 清潔野での清潔操作を円滑に行うことができる。
- ② 採血（静脈・動脈）を円滑に行うことができる。
- ③ 皮下注射、皮内注射、筋肉注射、静脈注射、点滴注射などを円滑に行うことができる。
- ④ 導尿を正確・円滑に行うことができる。
- ⑤ 膈洗浄を正確に行うことができる。
- ⑥ 中心静脈確保を正確に行うことができる。
- ⑦ 簡単な局所麻酔、皮膚切開、皮膚縫合を的確に行うことができる。

- (4) 基本的治療法
 - ① 経口薬剤、注射薬剤、外用薬剤の適応、用法、禁忌、副作用を理解し、処方することができる。
 - ② 輸液、輸血療法の基本を理解し、適応に応じて実施できる。
 - ③ 患者の状態を把握し、療養（安静度、体位、食事、入浴、排泄）についての的確に指導できる。
 - ④ 患者の負担を少なくした的確な治療法を選択することができる。
 - ⑤ 治療法について患者に説明し理解を得ることができる。
- (5) 救急疾患に対する処置
 - ① 救急患者や患者の急変を速やかに判断し、対処できる。
 - ② 初期治療を継続しながら指導医へ連絡・相談する状況判断ができる。
 - ③ 救急医療チームの中で協調的な態度がとれる。
 - ④ 冷静、沈着に行動できる。
- (6) 医の倫理
 - ① 患者の **Quality of life** を考えた治療方針を立てることができる。
 - ② 患者に対して **informed consent** を得ることができる。
 - ③ 患者、家族の気持ち・立場を考えた終末期医療ができる。
- (7) 医療記録などの種類と記載
 - ① 他人が見てもわかりやすい的確なカルテの記載ができる。
 - ② 診断書、検案書、証明書などの書類を正確に書くことができる。
 - ③ 他の医師に対して患者の情報を正確にわかりやすく **presentation** ができる。

<産科>

- (1) 妊婦管理
 - ① 妊娠の診断、妊娠時期の診断ができる。
 - ② 妊婦検診を行い、異常を発見することができる。
 - ③ 異常妊娠の診断と管理ができる。
 - ④ 合併症妊娠の管理ができる。
 - ⑤ 胎児に対する診察（発育、成熟、**well-being** の評価）ができる。
- (2) 分娩管理
 - ① 分娩の開始時期を診断できる。
 - ② 分娩監視装置を用いて産婦を管理することができる。
 - ③ 正常分娩の取扱ができる。（正常分娩の介助ができる。）
 - ④ 異常分娩の判断と管理ができる。（骨盤位牽出術、吸引・鉗子分娩、帝王切開）
 - ⑤ 分娩時の様々な異常に対して対処ができる。
- (3) 産褥管理
 - ① 正常産褥の診察と管理ができる。
 - ② 異常産褥の診断と管理ができる。
 - ③ 合併症妊婦の産褥管理ができる。
- (4) 新生児管理
 - ① 分娩直後の新生児（未熟児を含む）の状態を判断できる。（仮死、成熟度など）
 - ② 分娩直後の新生児に対して救急蘇生法を行うことができる。
 - ③ 新生児の一般管理について理解し、実施できる。
 - ④ 新生児の異常を判断し、指導医に的確に報告することができる。
 - ⑤ 指導医の指導の下に、新生児に対する処置を円滑に行うことができる。（気管内挿管、点滴など）
- (5) 産科検査法
 - ① 胎児心拍監視装置について習熟し、その所見を正確に評価することができる。
 - ② 超音波にて胎児の発育、異常を評価することができる。

- ③ 放射線検査にて骨盤計測をすることができる。
- (6) 産科治療
 - ① 妊婦、胎児および新生児に対する作用を考慮して薬剤を投与することができる。
 - ② 子宮収縮剤・子宮収縮抑制剤を用いて子宮収縮を調節することができる。
 - ③ 適応に応じて分娩誘発、陣痛の調節ができる。(人工妊娠中絶術を含む)
- (7) 産科手術法
 - ① 適応を判断し、児への影響も配慮して手術術式を選択することができる。
 - ② 妊婦および児への影響を配慮した術前・術中・術後管理ができる。
 - ③ (指導医の指導の下に) 以下の手術を執刀することができる。
 - 1) 頸管拡張術
 - 2) 子宮内容除去術 (人工妊娠中絶術を含む)
 - 3) 腹式帝王切開術
 - 4) 会陰切開・会陰縫合術
 - 5) 頸管裂傷縫合術
 - 6) 会陰裂傷・膣壁裂傷縫合術
 - 7) 人工破膜
 - 8) 吸引分娩術、鉗子分娩術
 - 9) 骨盤位牽出術
 - 10) 胎盤圧出法
 - 11) 胎盤用手剥離術
 - 12) 子宮双合圧迫法

<婦人科>

- (1) 婦人科検査法 (シニアは、指導医の指導なしに)
 - ① (指導医の指導の下に) 細胞診、組織診の検体採取ができ、得られた結果を評価できる。
 - ② (指導医の指導の下に) 超音波検査ができ、結果を評価できる。
 - ③ (指導医の指導の下に) 内視鏡検査ができ、結果を評価できる。
 - ④ (指導医の指導の下に) 各種放射線検査 (CT、MRI-CT を含む) について理解し、結果を評価できる。
- (2) 婦人科疾患への基本的対応 (シニアは、指導医の指導なしに)

(指導医の指導の下に) 以下の疾患に対して理解し、検査・治療方針を立てることができる。

 - ① 月経異常
 - ② 性の分化・発育・成熟の異常
 - ③ 炎症および性行為感染症
 - ④ 性器の形態異常
 - ⑤ 性器の位置異常
 - ⑥ 性器の類腫瘍性病変
 - ⑦ 性器の腫瘍性病変
 - ⑧ 絨毛性疾患
 - ⑨ 腹膜偽粘液腫
- (3) 婦人科治療法
 - ① (指導医の指導の下に) 化学療法の適応を理解し、治療計画を立てることができる。
 - ② (指導医の指導の下に) 抗腫瘍化学療法の適応を理解し、治療計画を立てることができる。
 - ③ (指導医の指導の下に) 各種化学療法剤の作用機序を十分に理解し、副作用に対し対処できる。
 - ④ (指導医の指導の下に) 放射線療法の適応を理解し、決定できる。
 - ⑤ (指導医の指導の下に) 放射線療法の副作用を理解し、対処できる。
 - ⑥ (指導医の指導の下に) 各種理学療法について理解し、決定できる。

(4) 婦人科手術療法

- ① (指導医の指導の下に) 適応を判断して、(手術術式を選択できる。)【レジデント】手術術式を選択できる。【シニア】
- ② (指導医の指導の下に) 患者の状態を考慮した術前・術中・術後管理ができる。
- ③ (指導医の指導の下に) 以下の手術の(執刀)【レジデント】執刀【シニア】・助手をすることができる。
 - 1) 単純子宮全摘出術(腹式・腔式)
 - 2) 子宮腔上部切断術
 - 3) 子宮筋腫核出術
 - 4) 子宮腔部円錐切除術
 - 5) 子宮頸管ポリープ切除術
 - 6) 性器脱手術
 - 7) 子宮付属器摘出術
 - 8) 卵巣腫瘍摘出術
 - 9) 卵管不妊手術
 - 10) 膣・会陰形成術
 - 11) バルトリン腺手術
 - 12) 腹腔鏡下手術
 - 13) 子宮鏡下手術

<不妊・内分泌>

(1) 内分泌検査法(シニアは、指導医の指導なしに)

- ① (指導医の指導の下に) 以下の内分泌検査について理解し、結果を評価できる。
 - 1) 基礎体温
 - 2) 膣細胞診
 - 3) 頸管粘液検査
 - 4) 超音波検査
 - 5) 子宮内膜組織診
 - 6) 染色体検査
 - 7) 各種ホルモン測定
 - 8) ホルモン負荷試験

② (指導医の指導の下に) 以下の不妊症検査について理解し、結果を評価できる。

- 1) 卵管疎通性検査法
- 2) 卵巣機能検査法
- 3) 子宮内膜組織診
- 4) 精液検査
- 5) 精子頸管粘液適合試験
- 6) 微生物検査
- 7) 内視鏡検査
 - a. 子宮鏡検査
 - b. 腹腔鏡検査
- 8) 免疫学的検査
- 9) 染色体検査

(2) 不妊症・不育症・内分泌異常に対する基本的対応(シニアは、指導医の指導なしに)

- ① (指導医の指導の下に) 視床下部・脳下垂体・卵巣系の内分泌障害をきたす疾患に対して理解し、(検査・治療方針)を立てることができる。
- ② (指導医の指導の下に) 不妊症に対して理解し、(検査・治療方針を立てる)【レジデント】検

査治療方針を立てる【シニア】ことができる。

- ③ (指導医の指導の下に) 不育症に対して理解し、(検査・治療方針を立てる)【レジデント】検査・治療方針を立てる【シニア】ことができる。
- (3) 不妊・内分泌治療法 (シニアは、指導医の指導なしに)
 - ① (指導医の指導の下に) 各種内分泌療法 (ホルモン補充療法を含む) について理解し、(実施できる。)【レジデント】実施できる。【シニア】
 - ② (指導医の指導の下に) 各種排卵誘発療法について理解し、(実施できる。)【レジデント】実施できる。【シニア】
 - ③ (指導医の指導の下に) 人工授精について理解し、(実施できる。)【レジデント】実施できる。【シニア】
 - ④ (指導医の指導の下に) 体外受精について理解し、(実施できる)。

【方略】

<産科> (シニアは、指導医の指導なしに。但し (1) は指導医の補助の下に。(4) は外来患者の問診を採り、カルテに記載する。)

- (1) 指導医の指導の下に入院患者を受け持ち、診察・処置・検査・治療方針の決定を行う。
- (2) 指導医の指導の下に分娩に立ち合い、処置を行う。
- (3) 指導医の指導の下に妊婦検診を担当する。
- (4) 外来患者の問診を採り、指導医が評価・訂正を行う。
- (5) 指導医の指導の下に当直を行い、救急患者に対応する。

<婦人科> (シニアは、指導医の補助の下に。但し (4) は外来患者の問診を採り、カルテに記載する。)

- (1) 指導医の指導の下に入院患者を受け持ち、診察・処置・検査・治療方針の決定を行う。
- (2) 指導医の指導の下に手術に立ち合い、指導の下に手術に参加する。
- (3) 指導医の指導の下に初診および再診外来を担当する。
- (4) 外来患者の問診を採り、指導医が評価・訂正を行う。
- (5) 指導医の指導の下に当直を行い、救急患者に対応する。

<不妊・内分泌> (シニアは、指導医の指導なしに。但し (1) は指導医の補助の下に (3) は指導医の補助の下に人工授精を行う。)

- (1) 指導医の指導の下に不妊・内分泌外来を担当する。
- (2) 指導医の指導の下に不妊症検査を行う。
- (3) 指導医の指導の下に入院患者を受け持ち、人工授精に立ち合う。
- (4) 指導医の指導の下に当直を行い、救急患者に対応する。

<産婦人科全般>

- (1) カンファレンスにて診断・検査・治療方針の確認を行う。

【評価】

上記の行動目標について自己評価を行い、かつ指導者から評価を受ける。

A：十分目標に達した、B：ほぼ目標に達した、C：目標にほど遠い

【研修プログラム】

- ・ 月曜日：病棟にて入院患者の診察または外来診察
- ・ 火曜日：手術
- ・ 水曜日：手術、病棟にて入院患者の診察または外来診察
- ・ 木曜日：病棟にて入院患者の診察または外来診察
- ・ 金曜日：手術、病棟にて入院患者の診察または外来診察、産婦人科病棟及び周産期カンファレンス

- ※ 定期的に勉強会（講義または抄読会）を行い、各疾患に対する知識・理解を深める。
- ※ さらにシニアは、症例をまとめて学術活動に参加する。

【見学等問い合わせ先】

産婦人科部長 中田 真一